

因となっている。また漁獲物の小型化もみられ、今後は周辺海域での柵網漁業の漁獲量の変動などとあわせて検討する必要がある。

なお、毎年設置や取り上げ作業時に悩まされるクラゲ類の出現が今年のみならず、水温等から考えて多少平年よりも季節の進行が遅れているように感じた。

(2) 幼稚魚調査

1984年4月16日から10月23日まで例年と同じ追い込み網を使用し、藻場に来遊する幼稚魚の調査をした。方法は前年度と同じである。

結果は表6、7、図7、および8に示すとおりで、期間中の採捕物の合計は約45種類、872個体である。多く採捕したのはオジサン、イソフエフキ、ヒメフエダ

表5 柵網漁獲試験の比較

年月日	種類数	個体数	重量(kg)
'79. 7	49	378	130
'80. 5	41	161	107.5
'81. 6	47	420	287.5
'82. 6	48	148	108.7
'83. 6	42	137	63.3
'84. 6	25	74	22.6

表6 追い込み網の漁獲試験

月 日	1984.							
	4. 16	5. 7	6. 7	7. 9	8. 15	9. 26	10. 23	
	No. FL	No. FL	No. FL	No. FL	No. FL	No. FL	No. FL	No. FL
ア カ エ ソ	1 164.2							
マ ダ ラ エ ソ							1 119.3	
オ オ メ カ マ ス					1 75.2			
リュウキュウヒメジ						1 60.3		
モンツキアカヒメジ				1 55.5	1 91.6	9 50.3		
インドヒメジ						6 45.2	1 57.0	
オオスジヒメジ					3 53.0	1 48.2	6 64.2	
コバンヒメジ					2 84.5	5 43.7	3 60.8	
オ ジ サ ン			6 52.2		2 86.3	12 61.3	5 58.1	
イシガキテンジクダイ			2 31.5	8 36.4		4 39.0		
ヤライイシモチ				1 39.2				
ヨコシマタマガシラ					2 53.4	4 60.1	2 73.6	
ヒトスジタマガシラ	1 161.0							
フタスジタマガシラ				1 41.6				
イソフエフキ	2 91.6		1 29.7	11 36.4	24 50.3	3 55.4		
イトフエフキ					2 63.7			
マトフエフキ					2 141.0	1 193.5		
フエフキダイ sp.				1 62.8				

No: 個体数, FL: 平均尾叉長(mm)

イ、ロクセンスズメダイ、ルリスズメ、アイゴ、アミアイゴ、およびハナアイゴなどである。なお、今年のアイゴ類の本格的な採捕は例年に比べて遅く、7月になってからである。

表7 追い込み網の漁獲試験

月 日	1984						
	4.16	5.7	6.7	7.9	8.15	9.26	10.23
	No. FL	No. FL	No. FL	No. FL	No. FL	No. FL	No. FL
ヨスジフエダイ				1 47.5			
ヒメフエダイ	2 122.0		11 41.5	7 49.5	7 51.2	17 42.6	14 52.4
クラカケトラギス						1 56.0	
ハタタテギンポ				1 42.0			
ニジギンポ				1 50.0			
サラサハゼ						1 73.7	
ハゼ SP						1 66.8	
オジロスズメダイ				2 32.5	2 41.8		
オヤビッチャ					1 32.3		
ロクセンスズメダイ				51 24.3	7 31.1	5 36.4	
ルリスズメ	3 45.3	4 44.2	21 30.2	32 35.8	16 31.6	24 37.2	
オニベラ							1 42.4
ハラスジベラ			1 38.6	19 44.2	30 51.6	39 55.8	21 64.1
ミツボシキュウセン	2 80.7						
アカニジベラ						5 54.7	
カザリキュウセン	1 53.6				5 49.6	1 47.5	1 67.2
シチセンムスメベラ	1 72.3					1 84.6	
ミゾレブダイ					1 74.3	2 62.7	
ブダイ SPP.	1 219.9			13 51.3		1 35.0	
ヤリカタギ	1 127.5						
トゲチョウチョウウオ	1 105.0						
フウライチョウチョウウオ	4 159.1						
アケボノチョウチョウウオ					1 60.5		
ミスジチョウチョウウオ	2 109.5				2 107.5		
クロハギ				4 37.4		1 69.2	
アイゴ			1 34.6	49 45.3	57 50.9		
アミアイゴ				128 42.7	66 45.6	5 63.0	
ハナアイゴ				28 59.4			
ムラサメモンガラ					1 180.1		2 187.9
シマキンチャクフグ							2 95.5

No : 個体数, FL : 平均尾叉長 (mm)

フエフキダイ類は47尾採捕し、そのうちイソフエフキは41尾で約87%を占めた。図7にフエフキダイ類の体長組成別出現個体数を示すが、イソフエフキ幼魚は6月に25~30mmサ

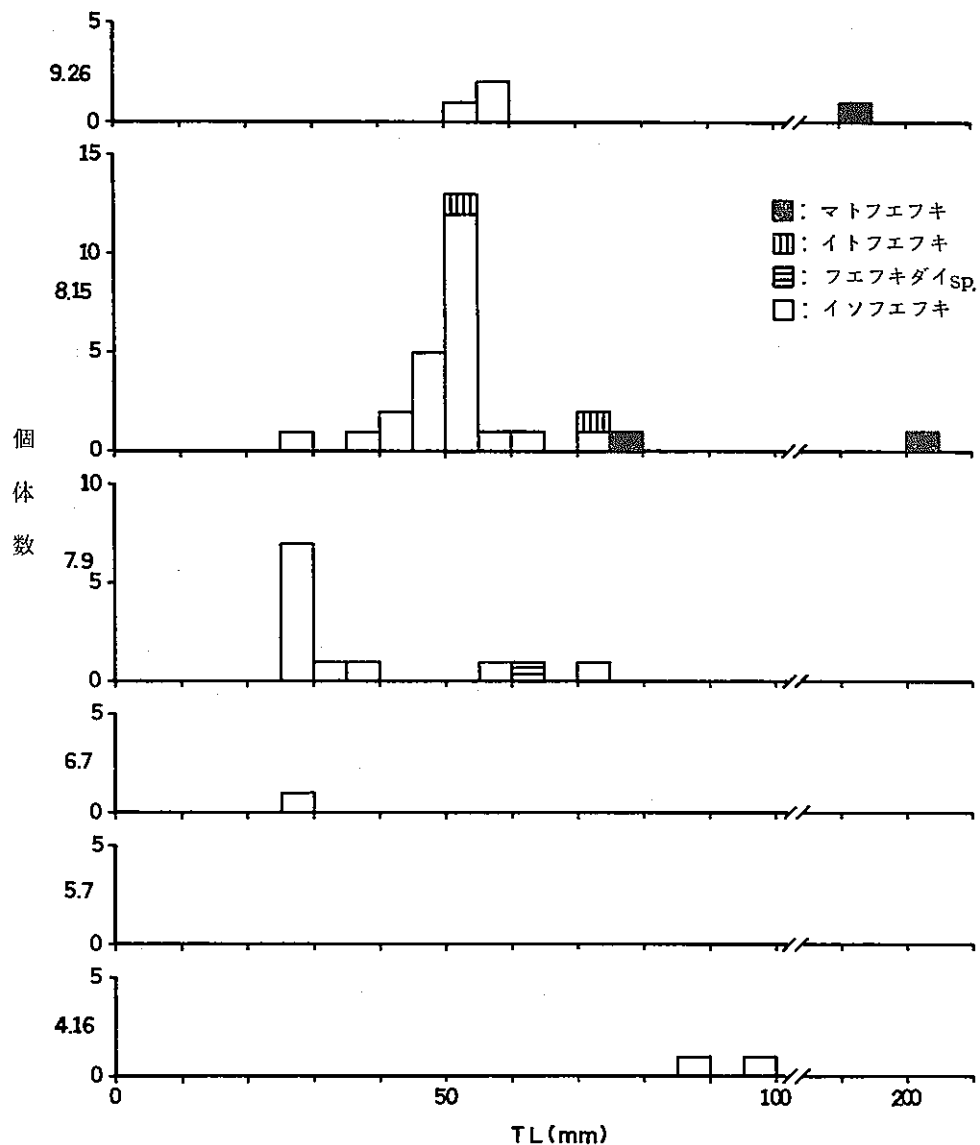


図7 フェフキダイ類の体長組成別出現個体数

イズのものが初めてみられ、その後8月15日には50~55 mm、9月26日55~60 mmにピークがみられる。また、イトフェフキやマトフェフキは同時期のイソフェフキに比べて多少大型の傾向がみられる。なお、前年度は25~30 mmサイズのイソフェフキの出現は5月にみられ、今年度は約1ヶ月程遅れていると思われる。アイゴ類の体長組成別出現個体数は図8に示すとおりである。アイゴでは7月9日の出現個体数に35~37.5 mmと50~52.5 mmで2つのピークがみられ、前者は6月出現個体、8月の47.5~50 mmピーク群と同一産卵群であることが推定され、後者は8月の70~72.5 mmと同一群であることが予想される。また、ア